

令和7年 稲作情報 第6号

令和7年7月22日発行 宮城県亘理農業改良普及センター

電話 0223(34)1141 FAX0223(34)1143 ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

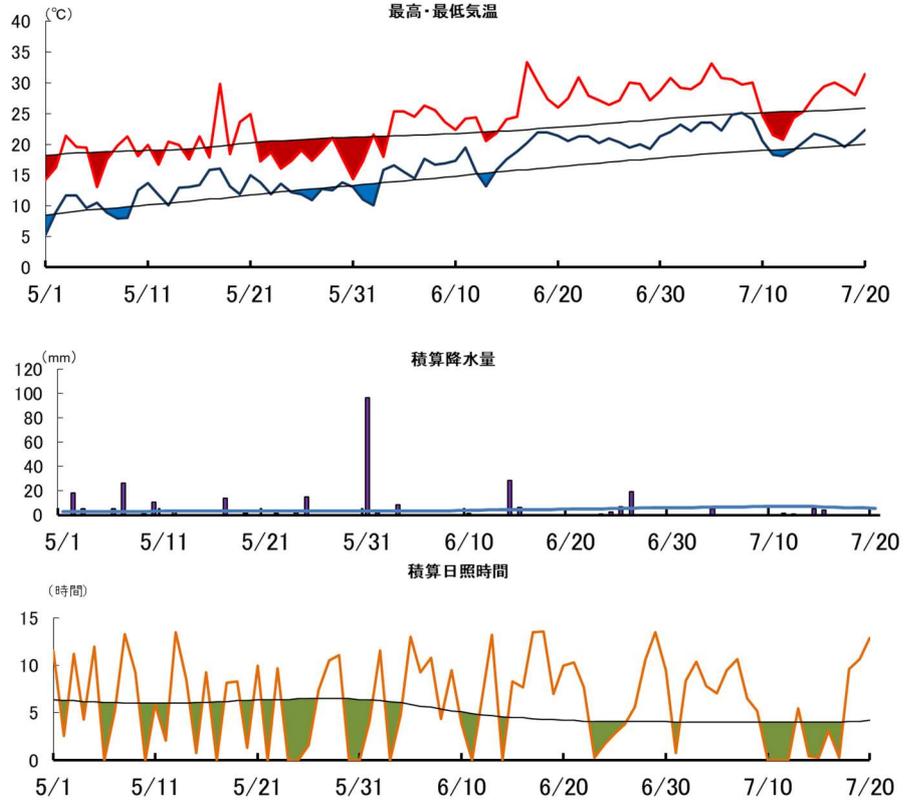
【気象経過】

観測地点：亘理アメダス

(7月)

7月中旬は、台風5号等の影響から、曇りがちの日が多くなりました。平均気温は23.3℃(平年差+1.1℃)、日照時間は42.8時間(平年比106%)、積算降水量は12.0mm(平年比18%)でした。

なお、7月18日に梅雨明けが発表されました。



【移植栽培】

1 生育状況

7月18日調査の幼穂長は、「ひとめぼれ」が21.1mmで間もなく減数分裂期を迎えます。「だて正夢」が51.7mmで、減数分裂期に達しています。「つや姫」は幼穂長4.8mmで幼穂形成期を過ぎました。

NO	品種	調査地点	田植月日	栽植密度 (株/m ²)	7月18日調査			
					葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)	
1	ひとめぼれ	名取市	本年値	5月18日	18.4	12.7	40.9	20.4
			平年比	(1日遅い)		0.6	2.7	-10.9
2	ひとめぼれ	山元町	本年値	5月18日	19.6	13.1	41.3	21.8
			平年比	(1日遅い)		1.2	-0.7	2.5
	ひとめぼれ	2ほ場平均	本年値	5月18日	19.0	12.9	41.1	21.1
			平年比	(1日遅い)		0.9	1.0	-4.2
3	つや姫	岩沼市	本年値	5月15日	17.5	11.7	34.4	4.8
			前年比	(±0日)		-0.6	-3.5	1.9
4	だて正夢	亘理町	本年値	5月7日	14.9	12.8	33.3	51.7
			平年比	(±0日)		0.6	-5.1	-32.0
5	にじのきらめき	岩沼市	本年値	5月15日	14.9	12.2	43	1.8
			平年比	—		—	—	—

平年値は、No.1、2及び4は、同一ほ場で過去5か年の平均値。
No.3は、前年から調査のため、前年比。No.5は、今年度から調査。

幼穂の長さとお穂までの日数の目安

发育過程		出穂前日数	幼穂長	葉耳間長
幼穂形成期	始期	25日前	1~2mm	/
	終期	23日前	3mm	
減数分裂期	始期	15日前	3~4cm	-10cm
	終期	10日前	8~10cm	±0cm

2 今後の管理

(1) 出穂期予想

本年の水稻の生育は進んでおり、県内の中生品種の出穂期は7月29日頃の予想です。地帯区分別の出穂期予測は下表のとおりです。仙台湾沿岸地帯は、県平均より早く7月28日頃の予想です。(宮城県米づくり推進本部 情報第1号より)

表 県内地帯区分別の出穂期予測 (7月10日現在)

地帯区分	田植盛期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	5/12	7/5	7/15	7/29
南部平坦	5/13	7/5	7/15	7/28
仙台湾沿岸	5/11	7/5	7/15	7/28
西部丘陵	5/13	7/7	7/17	7/31
三陸沿岸	5/14	7/8	7/18	8/2
山間高冷	5/16	7/11	7/21	8/6

注) 幼穂形成期及び出穂期は、「宮城県水稻発育予測プログラム(暫定版)」(東北農研センター)を用いた予測日であり、減数分裂期は幼穂形成始期の10日後とした。

<予測条件>

①日別平均気温：各アメダス地点のメッシュ農業気象データ(7月10日までは実況値、その後26日間は予報値を使用)、②移植時期：各地帯区分の田植盛期、③移植時葉数：県生育調査ほ+作況試験ほ「ひとめぼれ」の平均2.9枚。④対象品種：「ひとめぼれ」。

(2) 水管理

①基本的な水管理

中干し→間断かんがい(穂ばらみ期)→浅水(出穂・開花期)→間断かんがい(登熟期)

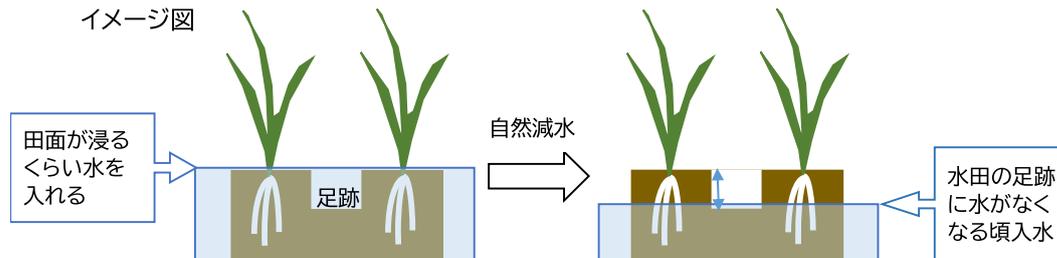
- ・中干しは、遅くとも幼穂形成期前に終了します。
- ・根腐れが発生しやすく倒伏の危険性のある水田は、有効茎を確保する頃から落水期まで、飽水管理により、根の健全化と茎の充実を図ってください。

②高温時の水管理

- ・土壌を常に湿潤状態に保つ飽水管理で維持することによって、湛水管理に比べると乳白粒や胴割粒の発生が軽減できます。
- ・水温が外気より高い場合、かけ流しにより品質低下を助長する恐れがあります。

※飽水管理：水田について足跡に水がなくなったら入水し、表土が十分湿ったら止水・自然落水する方法。間断かんがいより土壌が酸化的に保たれ、根の活性が高まる。用水不足が懸念されるときの水管理としても有効。

イメージ図

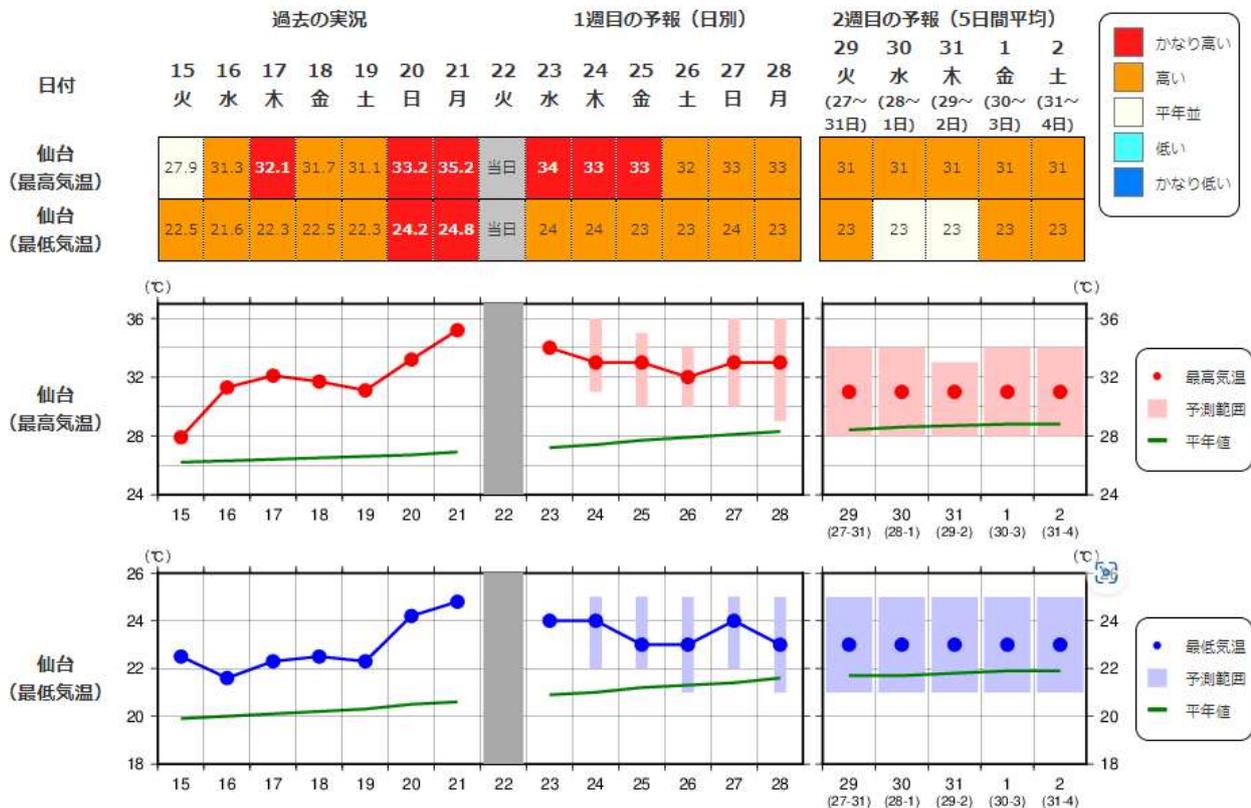


- ・落水は出穂後30日以降とし、登熟歩合の向上を図りましょう。

2週間気象予報（気象庁）では、気温が「高い」または「かなり高い」予報となっています。

<7月22日 気象庁>

2週間気温予報



2週間気温予報は仙台管区気象台のホームページを御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/>

(3) 追肥

本年の水稲の生育は進んでいます。草丈や葉色を確認し、適切に追肥しましょう。

表1. 品種・生育ステージごとの生育量及び追肥窒素量の目安

品種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm，出穂20～25日前）				減数分裂期（幼穂長30mm，出穂15日前）			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉緑素計値 (群落葉色板値)	追肥窒素量 (kg/10a)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉緑素計値 (群落葉色板値)	追肥窒素量 (kg/10a)
ひとめぼれ	56～59	470～530	38～40 (4.4～4.8)	1.0	66～69	450～500	35～37 (4.0～4.3)	1.0
ササニシキ	62～68	720～760	34～36 (3.8～4.2)	0※ ¹		550～580	32～34 (3.5～3.8)	1.0～1.5
つや姫	70～75	550～580	35～37 (4.0～4.3)	2.0				
だて正夢	64～70	390～460	40～42 (4.8～5.1)	0※ ²	76～82	380～420	37～39 (4.3～4.6)	2.0
金のいぶき	65～70	570～620	33～35 (3.6～4.0)	1.0	83～88	490～540	30～32 (3.2～3.5)	1.0
つきあかり	47～55	370～420	40以上	1.0	75～83	330～350	40以上	2.0

(4) 紋枯病対策

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。要防除水準（収量が5%以上の減収を想定して防除する場合）は、「ひとめぼれ」で穂ばらみ期の発病株率が18%です。

(5) 稲こうじ病

穂ばらみ期が低温で、降雨日数が多いと発生が多くなります。銅剤による防除は出穂 20～10 日前に実施しましょう。

(6) いもち病対策

- ・7月中旬以降は予防粒剤（箱施用剤、水面施用剤）の効果が低下し始めるとともに、追肥で葉色が濃くなり、葉いもちが感染しやすい環境となります。ほ場をよく観察し、葉いもちの発生が確認された場合は、直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。特に、穂いもちの重要な伝染源となる上位葉での葉いもちの発生には、十分注意して下さい。
- ・穂いもちの予防粒剤は出穂 20～10 日前に使用する剤が多いので、生育状況(幼穂長等)の観察や出穂期の予測に基づき、適期に散布して下さい。
- ・粉剤や液剤などの茎葉散布剤による穂いもち防除は、1 回目の防除を出穂直前に、2 回目を穂揃期に行い、葉いもちの発生が多く、穂いもちが多発する恐れがある場合や出穂期間が長引く場合には、3 回目を穂揃期の7～10 日後に実施しましょう。
- ・葉いもちが発生しやすい気象条件（低温・少照・多雨等）が出現しているかどうかは、県病害虫防除所のホームページの葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM) (<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>) で確認できます。
- ・いもち病に感染していれば、葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM)の好適条件発生の10～14 日後にほ場で病斑が確認され始めますので、ほ場の観察を行いましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除して下さい。

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM 令和7年度)

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
7/4	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/5	●	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	△	○	—	—	—
7/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/10	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/11	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	○	○	—	○
7/12	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	●	●	—	●
7/13	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	—	—	●	—	—	—
7/14	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/15	?	—	●	●	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/16	—	—	●	—	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—
●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上, 平均気温15～25℃, 前5日間の平均気温20～25℃)が出現した日																
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが, 前5日間の平均気温が条件から外れている場合																
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合																
—	好適条件なし																	
?	判定不能																	

(7) 斑点米カメムシ類の防除

注意報第3号！！

周辺草地及び本田で斑点米カメムシ類が多発！

適期防除を実施しましょう！

予想発生量：多

発生時期：やや早い（第2世代発生盛期：8月11～15日）

【水田周辺の草刈り】

- すでにアカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期を迎えていることから、今後、水田周辺の畦畔や雑草地の草刈りを行うと、成虫を水田内に追い込み斑点米被害を助長します。やむをえず草刈りを行う場合は、草刈り後直ちに水田への薬剤防除を実施して下さい。

【薬剤防除（出穂期以降）】

- 薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。ほ場をよく観察し、遅れないように防除を実施しましょう。
- クモヘリカメムシは水田に越冬世代成虫が侵入し、その後1世代を経過します。クモヘリカメムシの発生地域で「つや姫」等の晩生品種を作付けする場合は被害リスクが高くなる可能性があるため、適期防除を実施して下さい。
- イヌホタルイが多発しているほ場では、1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できます。

【巨理・名取管内のアカスジカスミカメ発生時期の推定（アメダス（巨理））】

	越冬世代		第1世代		第2世代	
	ふ化	成虫	ふ化	成虫	ふ化	成虫
発生時期	5月23日	6月19日	7月8日	7月24日	8月8日	8月22日

※7月17日までのアメダス（巨理）実測値と7月18日以降はアメダス（巨理）過去5か年（令和2年～令和6年）の平均値を使用。

※予測月日は重久（2004）の報告に基づき算出（卵：発生零点12.1℃，有効積算温度105.7日度，幼虫：発生零点11.9℃，有効積算温度182.1日度，産卵前期間：発生零点15.1℃，有効積算温度59.5日度）。

【乾田直播栽培】

1 生育状況

7月18日調査の幼穂長は、「ひとめぼれ」が5.4mmで幼穂形成期を過ぎました。昨年より生育は1週間程度遅れています。

NO	品種	調査地点	播種月日	栽植密度 (条/m)	苗立数 (本/m ²)	7月18日調査					
						草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)	
1	ひとめぼれ	岩沼市	本年値 前年比	4月9日 (1日遅い)	3.3	73	75.2 95%	454 147%	11.5 -0.2	38.5 2.3	5.4 -32.2

前年度からの調査のため、前年比。

2 今後の管理

(1) 水管理

移植栽培の水管理と同様に管理してください。

出穂期～穂揃期は浅水管理を行いましょう。

(2) いもち病対策

水面施用剤を防除適期に散布してください。

葉いもちが発生しやすい気象条件（低温・少照・多雨等）が出現しているかどうかは、県病害虫防除所のホームページの**葉いもち感染好適条件 の出現状況(BLASTAM)**

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>) で確認できます。

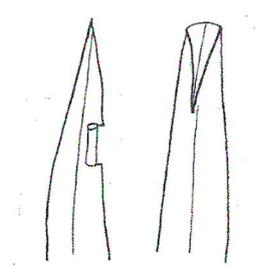
(3) 斑点米カメムシ類防除

注意報第3号が発表されました。

斑点米による落等を防止するため、畦畔等の雑草は水稻出穂の10日前までに刈り終わってください。斑点米カメムシ類の薬剤防除は移植栽培同様、穂揃期とその7～10日後の2回防除を基本とします。

(4) イネツトムシ（イチモンジセセリ）

イネツトムシの被害は大きく、防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。



図：若齢幼虫の形成するツト

農作業中の熱中症に注意しましょう！（農作業中の熱中症による死者数が急増しています）

高温時の農作業や単独作業を避け、20分おきに休憩・水分補給しましょう。

冷却タオルやファン付きウェアなどの熱中症予防グッズを活用しましょう。

『高温に対する農作物等の技術対策情報』は、こちらから

